

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

2024年度

研究開発実施報告書

SIP 課題名「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する
プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名「真正で探究的な学びを実現する
教育コンテンツと評価手法の開発」

研究開発期間： 2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

研究開発責任者	氏名	松下佳代
	所属機関	国立大学法人 京都大学
	部署	大学院教育学研究科
	役職	教授

研究開発成果等の概要

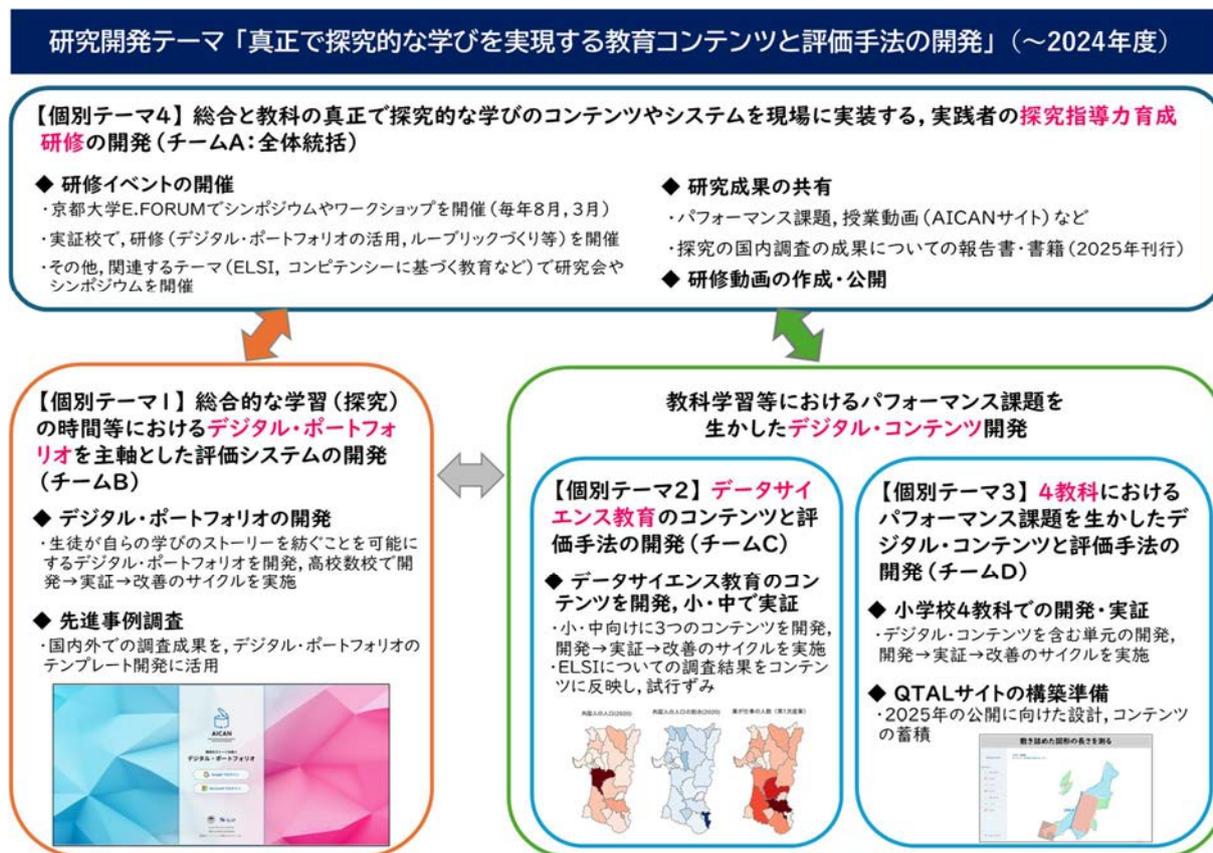


図1. 2024年度までの進捗状況

私たちのチームでは、研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツとカリキュラム全体を見通した評価システムの開発」(Authentic and Inquiry Learning focused Educational Content and Assessment Development: AICAN)を設定し、4つの個別テーマ、4つのチームを編成して取り組んできた。2024年度までの進捗状況は図1に示すとおりである。

【個別テーマ1】総合的な学習(探究)の時間等におけるデジタル・ポートフォリオを主軸とした評価システムの開発(チームB)

◆ デジタル・ポートフォリオの開発

・「生徒が自らの学びのストーリーを紡ぐことを可能にするデジタル・ポートフォリオの開発」を基本コンセプトに開発を進めてきた。このデジタル・ポートフォリオは、①ワーキング・ポートフォリオ(ためる機能)を②パーマナント・ポートフォリオ(紡ぐ機能)へ導くシステムであり、GoogleドライブやOneDriveの活用、学びの紡ぎを促すテンプレートの実装という特徴をもっている。現在、高等学校3校で実証実践を展開しており、中学校でも来年度からの導入に向けて準備中である。

◆ 先進事例調査

・デジタル・ポートフォリオの開発を始めるにあたって、「探究」やDE&I (Diversity, Equity and Inclusion) の先進事例（国内 36 校，国外 12 校* *国内 34 校，国外 8 校から修正）の調査を行った。現在，その成果を報告書にまとめるとともに，単行本として公刊する準備を進めている（2025 年刊行予定）。この調査成果は，「真正で探究的な学び」の実現を目指した教員研修，ならびに，デジタル・ポートフォリオの本体及びテンプレートの開発にも活かされている。

【個別テーマ 2】 データサイエンス教育のコンテンツと評価手法の開発（チーム C）

◆ データサイエンス教育のコンテンツを開発，小・中で実証

・ ELSI についての公開シンポジウム（オンライン，2024 年 7 月）を開催し，その中で，ELSI に配慮した探究的な学びとデータサイエンスに関わる「模擬倫理審査教材」の構想を示した。また開発した模擬倫理審査教材を高等学校 3 校で試行した。

・ 小中向けのデータサイエンス教材を開発し，それを活用した授業を，都市部の中学生（2, 3 年生 56 名）や過疎地の小学生（5, 6 年生 22 名）を対象に実施し，フィードバックを得た。

【個別テーマ 3】 4 教科におけるパフォーマンス課題を生かしたデジタル・コンテンツと評価手法の開発（チーム D）

◆ 小学校 4 教科での開発・実証

・ パフォーマンス課題の考え方にもとづき，デジタル・コンテンツを含む単元を小学校の 4 教科で開発し（理科 2 単元，国語・算数・社会各 1 単元），実証校において実践した。実証のタイプをデータの種類の多さ，分析の深さによって 3 タイプに分け，研究と社会実装の両立をはかった。

◆ QTAL サイトの構築準備

・ 社会実装を加速させるため，パフォーマンス課題の考え方で設計された単元を共有する QTAL (Quality Teaching for All Learners) サイトの構築の設計に着手した（公開は 2025 年 8 月の予定）。小学校の国語・理科・英語，中学校の数学，理科，社会，英語，高等学校の英語において，パフォーマンス課題を含む単元の指導案を蓄積した。

【個別テーマ 4】 総合と教科の真正で探究的な学びのコンテンツやシステムを現場に実装する，実践者の探究指導力育成研修の開発（チーム A：全体統括）

◆ 研修イベントの開催

・ 本研究開発の成果を現場と共有し，改善意見を得るために，京都大学大学院教育学研究科 E. FORUM 等でシンポジウムやワークショップを開催した。

2024. 7. 29 研究会「教育における ELSI を考えよう」（オンライン）

2024. 8. 21 ワークショップ「真正で探究的な学びを実現するパフォーマンス課題とは」@ 京都大学 など

・ 実証校で，実証を支援し，成果に関する意見を交換するためのワークショップを実施した。

2024. 8. 22 ワークショップ（算数のパフォーマンス課題）@高倉小学校

2025. 2. 25 ワークショップ（デジタル・ポートフォリオの活用）@札幌中学校 など
- ・その他、関連するテーマで研究会やシンポジウムを開催した。
2024. 12. 14 国際シンポジウム「今求められる学力と学びとは？—コンピテンシーに基づく教育をグローバルに問う—」（オンライン）
2024. 12. 20 公開シンポジウム「教育学における社会的インパクトを考える」（オンライン）
など

◆ 研究成果の共有

- ・パフォーマンス課題を含む単元開発について、授業動画を本研究開発（AICAN）のサイト（<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/sip/>）で公開した。
- ・探究の国内調査の成果について報告書を作成するとともに（2025年3月）、書籍の準備を進めた（『高等学校探究的な学び：次の一手への道しるべ（仮）』2025年刊行予定）。

◆ 研修動画の作成・公開

- ・研修を円滑に進めるために、計9本の研修動画を作成し、公開した。
- 「AICANプロジェクトの取組」（チームA）、「デジタル・ポートフォリオの開発」「デジタル・ポートフォリオってなに？」（チームB）、「データサイエンス教育の取組」「GIS教材」「都道府県版GIS教材」（チームC）、「パフォーマンス評価とは何か」「ルーブリックとは何か」「逆向き設計論とは何か」（チームD）

以上のように、当初計画の内容を大きく上回って、社会実装に向けてプロジェクトが進捗している。